

円形球面切断によるマンホール鉄蓋維持修繕工法

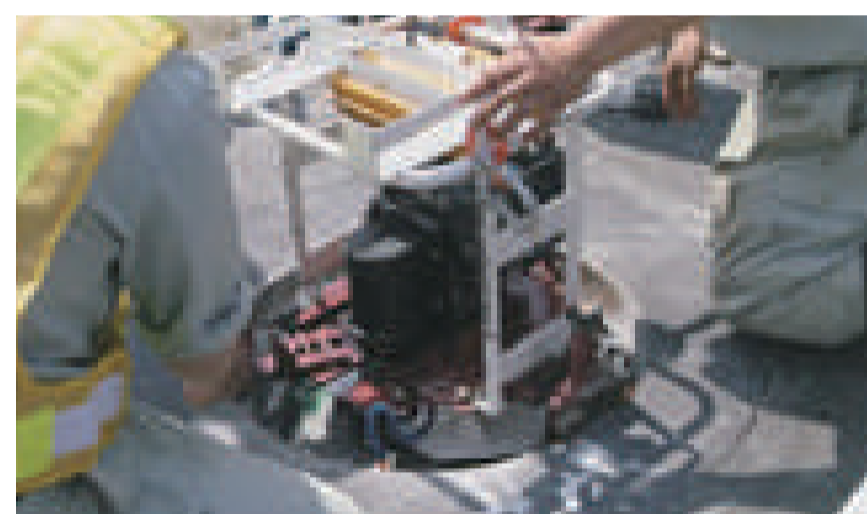
パラボラ工法

はじめに

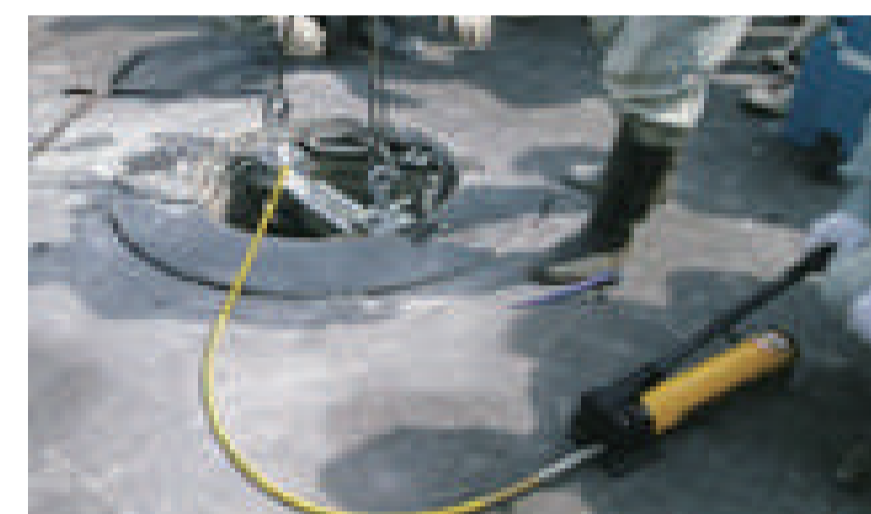
- 円形切断用路面カッターに円形球面上のダイヤモンドブレードを取付け、鉄蓋上に360度回転して表面を円形に切断し、無収縮モルタルを使用して鉄蓋の維持修繕作業を行います。
- 単体移動が可能な円形切断用路面カッターは交通規制範囲を狭められ、短時間で施工できる工法です。
- 切断塊の除去は緊結ボルトの切断を行い、破碎機を使用せずリフターによる剥離撤去が可能な清音工法です。
- パラボラ工法指定のモルタルは1時間後の圧縮強度が10ニュートン以上に達し、悪条件下でも施工が可能です。
- 円球状の切断面は上部からの力を分散させ、補修面との一体化がより可能です。
- なべ底原理の円球状切断面は補修箇所の陥没や雨水の侵入を防げる大きな特徴をもっています。
- 破碎をしない清音撤去、転圧をしない無振動の環境重視型工法です。



切断は円形球面上に



緊結ボルトは内径切断機で



分離はスプリッターで



リフターで完全分離



破碎は行わず吊り上げ



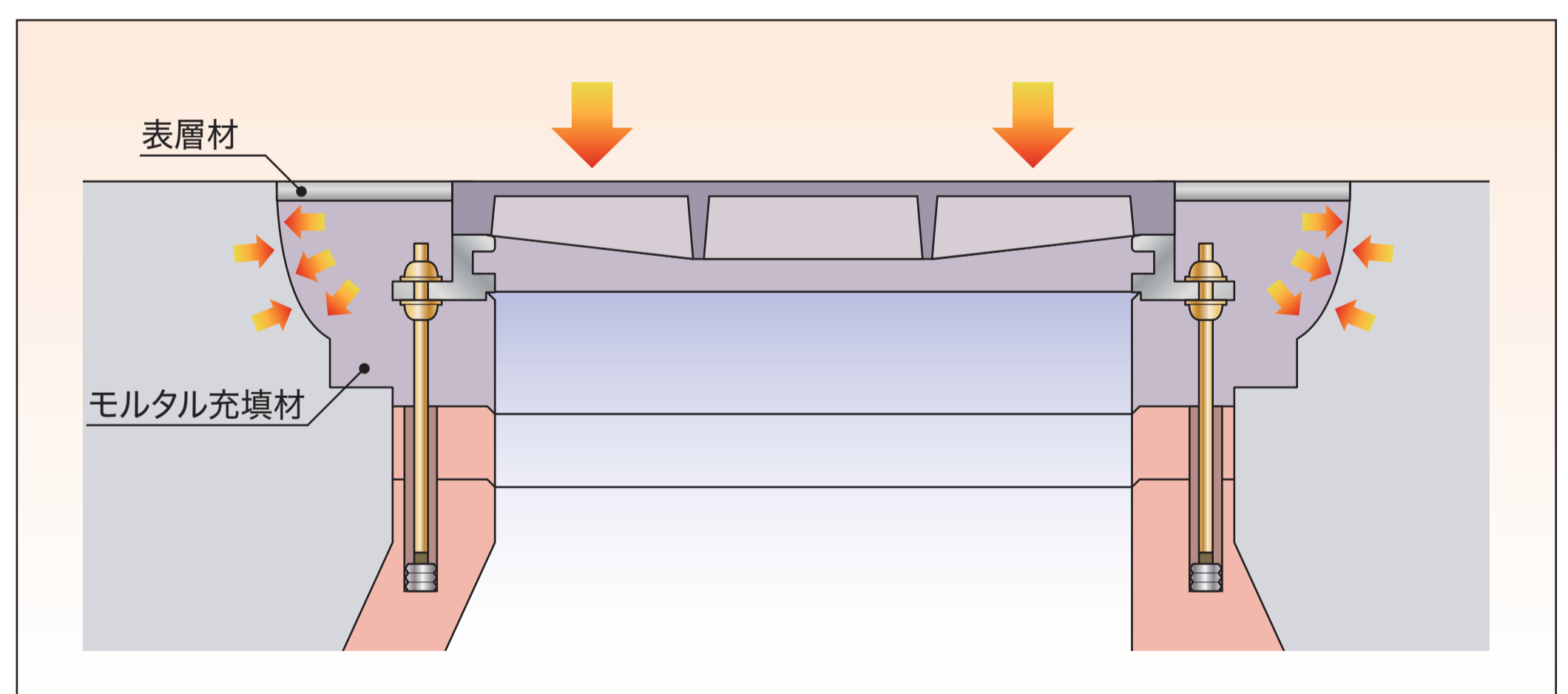
充填材、表層材共に無転圧で施工

パラボラ工法の特徴

密着度

パラボラ状断面は鍋にふたをするがごとくに素晴らしい密着性を発揮します。

パラボラ状の切断エッジは接着面積が広く、摩擦抵抗が曲線へ分散される為、通行車両の荷重に確実にたえられる円形球面状切断面です。



規制範囲

単体移動可能なカッター、簡略な機材は交通規制範囲を最小限に抑え、昼間施工をより可能にします。



規制範囲 約20.0m以内(1カ所施工の場合)